２０２５

小学生のつながりと机

Combination Table for Children

ＡＤ３８　原　小百合
指導教員　小西　　均

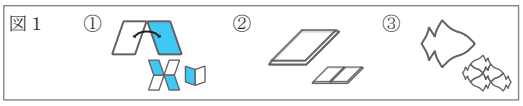
1. 研究目的

現代の小学生たちは、テレビゲームや塾通いなどにより、個人を中心とした意識・行動が増えているように感じる。そこで、小学校という共同生活の場のなかで子供たちが共通の意識“つながり”を持って使用することができる机の提案を行う。ここでの“つながり”とはコミュニケーションのことで団結力や助け合いの精神を持つという意味である。

2. 調査と分析

小学校生活での机の使用用途は、ただ授業を受けるためだけでなく、話し合いや給食を食べるときに机をくっつけて５・６人の班を作る。この動作に“つながり”の要素を加えられそうだ。そこで個々の机をひとつのグループに組合せ、それがコミュニケーションとなるような机の天板にするという考えで検証した。

［調査］天板の形状３案（図１）を用意し、小学１年生・３年生・５年生の各５名ずつに組合せてもらい、その行動を観察する。



［分析］学年により形の認識力に大きな違いが出たが、どの学年も共通に、自然と話し合いをし、コミュニケーションを取りながら組合せできた。多くの子が図１-③のような複雑な形に興味を示したが、机として機能するかが問題となった。

3. コンセプトの立案

「コミュニケーションがとれ、会話を促進」

・まとまりのある組合せができる

・机としての機能を果たす

4. デザイン展開

［天板］複雑な形状の天板では、学習する机として安全面や使勝手から機能しない。机として機能するためには、形状をできるだけ平面に直角関係のある四角に近づけなければならないと考えた。図１-③のように、面と面を合わせてグループを作る天板の形状で、それを従来の机のように四角い形で考えた。また、丸みを帯びた辺を多数に取り入れ、組合せにバリエーションがでないか試したが、あまりバリエーションを出すのも机としての本来の機能がそぐわないので丸みをもった辺による組合せを行う天板の形状に至った。

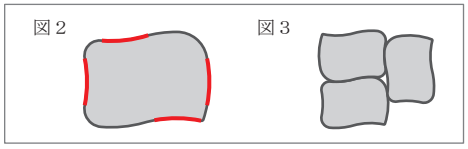


図２は天板の平面図である。外形のそれぞれ４辺は同アールで構成され、図３のように組合せすることができる。少し角度を傾けたりすることでぴったりと合さる面になっているため、話し合いや、皆が協力しなければ１つの班にはならないようになっていることでコミュニケーションをはかる。

［脚部］天板の形状を強調するために同じ外形を持った脚にした。材料は鉄パイプを使用し、強度をつける為に、４点から天板を支え、その間に天板と同じ外形に曲げた鉄パイプを入れた。それを利用し、棚部分にした。

5. 完成図

１/１モデル

３/１スケールモデル

6. 結論

調査で協力してもらった子供たちに意見を聞いた。机としての機能は十分あり、アールが体にフィットして持ち運びやすそうなどの利点があることがわかった。新しい形状の脚部の別の使い道なども子供たち自身で広げていた。問題点としては、２段目の棚板が鉄パイプよりも幅広いため、荷物がかけにくいことがなどの意見が挙がった。全体的に丸みをおびた形のために、安全面でも問題はなさそうだった。ただ、２本足の机と比べると足の移動が不便そうであった。